

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

- 1 連結ベースの損益状況の推移
- 2 現状分析
- 3 対応方針
- 4 株主還元に対する考え方

2025年3月10日
中国工業株式会社

1. 連結ベースの損益状況の推移

決算年月		2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高	(百万円)	12,784	12,992	12,878	12,866	13,389	13,332
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	64	90	124	132	199	206
1株あたり純資産	(円)	1,201	1,241	1,340	1,325	1,392	1,563
1株あたり純利益	(円)	18.91	26.85	38.16	40.84	61.31	63.46
ROE	(%)	1.53	2.22	2.96	3.07	4.51	4.29
PBR	(倍)	0.46	0.29	0.68	0.46	0.47	0.40
PER	(倍)	29.51	13.59	23.95	14.94	10.65	9.85
期末株価	(円)	558	365	914	610	653	625
1株あたり配当額	(円)	10	15	15	15	15	18

- ・ 最近の6年間程度、業績は安定し利益水準も徐々に改善してきているものの、利益率はなお低位であり、上場企業として株主の期待に応える水準に達しているとは言い難い。
- ・ 株主に対する還元（配当額）については、利益水準の改善に比し今一步の状況である。

2. 現状分析

現状分析

資本コスト	資本収益性	市場評価
【WACC】 →2.81% 【株主資本コスト】 →6.60%	【ROIC】 →2.28% 【ROE】 →4.09%	【株価】 →625円（532円） （ ）は2025/2/17終値 【PBR】 → 0.40倍 【PER】 → 9.85倍
EVA スプレッド（ROIC － WACC）	→	▲ 0.53%
エクイティスプレッド（ROE － 株主資本コスト）	→	▲2.51%

※当社決算予想等に基づき試算したもの

- EVAスプレッド・エクイティスプレッドはマイナスとなっており、株主の期待（資本コスト）に対し当社の収益性は応えられていない状況である。
- 当社の市場評価として株価は低迷しており、PBRは1.0倍の半分以下となっている。よって、連結ベースでの損益状況から2019年3月期以降利益水準が改善していく一方、PERは逆に低下傾向を辿ってきている。

3. 対応方針

当社は、以下の通り「資本コスト」「資本収益性」「市場評価」をより重視した経営を行っていく方針。

エクイティスプレッド等の改善に向けた対応

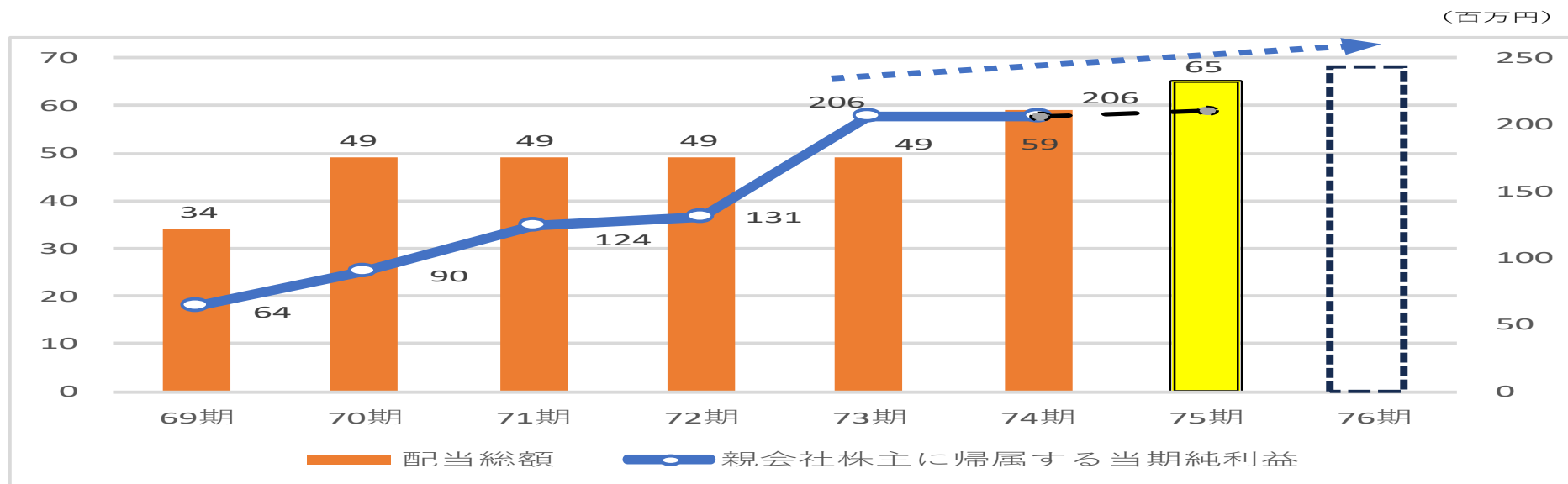
継続的なROEの改善	当期純利益率の向上	収益力強化に向けた取組み (下表「中期経営計画の重点取組方針」参照)
	財務レバレッジの向上	有利子負債（長期借入金等）導入の検討 株主還元への前向きな取組み
株主資本コストの減少	適切な情報開示	当社の経営に関する適時適切な開示

中期経営計画の重点取組方針

項目	重点取組方針	内容
収益力の強化	生産工程の一層の省力化、省人化および効率化によるコスト削減	○ 高圧機器製造工場における、設備更新・LPガス小型容器製造工程の各種自動化推進による生産性向上
	製品の性能、品質優位性の確保による他社製品との差別化	○ LPガス小型容器の軽量化、飼料タンクの品質改良
	製品の拡充、新製品の開発、新事業領域の開拓による売上拡大	○ 次世代高圧ガス容器としてのFRP製容器の製品開発拡充・販売機種多様化 ○ 「スマートガスネットワーク構想」に搭載する高圧ガス容器の開発と国内外での実証実験開始に向けた認可の取得
	営業利益率の向上による財務体質の更なる強化	○ コスト上昇に連動した適切な販売価格の設定 ○ 全社をあげたローコストオペレーションへの不断の取組

4. 株主還元に対する考え方

株主還元については、持続的な成長に向けた投資や自己資本増加による財務安定性に配慮しつつ、株主の皆さまの期待にできる限りお応えできるよう、一株あたりの配当金を中心とした還元の充実に努めてまいります。
 なお、2025年3月期は、前年より2円増配の予定です。



期	69期	70期	71期	72期	73期	74期	75期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
連結配当性向 (%)	52.9	55.9	39.3	36.7	24.5	28.4	※30.0
一株当たり年間配当金 (円)	10	15	15	15	15	18	20

※2025年3月時点での見込